

[八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策]
灌水量がキキョウランの生育および品質に与える影響

岡澤立夫

(島しょ農林水産総合センター八丈事業所)

【要 約】キキョウランは灌水量が多いほど、草丈、展開葉数が多く生育に優れるが、灌水量の出芽数への影響はない。一方、葉先枯現象は、灌水量にかかわらず同様の傾向を示しており、水分と葉先枯との関連は見出せない。

【目 的】

八丈島ではキキョウラン (*Dianella caerulea*) の生産が伸びているが、基本的な生育特性については明らかになっていない。灌水方法や量などは生産者間で異なり、品質が安定していない。また、栽培上問題となっている葉先枯現象は炭疽病との関連（平成19年度、竹内ら）が示されているが、栽培株のほとんどで出現することから病気以外の要因も考えられる。そこで、本試験では灌水量と生育および葉先枯との関連を明らかにする。

【方 法】

2008年5月16日に株間、条間とも20cmでガラス室に各区80株ずつ定植した。7月16日からテンションメーター (DM-8HG) を用い、電磁弁による自動灌水制御を開始した（少：pF2.5開始-pF2.2停止，中：pF2.2開始-pF1.9停止，多：pF1.9開始-pF1.6停止）。灌水は点滴灌水チューブ（ストリームライン80）を用いた。各試験区は木枠で隔離し外部からの水の影響を少なくした（図1）。生育は、8月13日、9月25日、10月28日の3回40株ずつ調査した。葉枯程度は12月18日に各区30株調査した。

【成果の概要】

- 1) 灌水量の積算値およびpFは、図2および図3のように変化した。
- 2) 草丈は多灌水区>中灌水区>少灌水区の順番で高かった（図4）。展開葉数も同様であった（図5）。
- 3) 出芽数は、各区で有意な差がなく、灌水量の影響は認められなかった（図6）。
- 4) 葉枯度は、古株ほど、下位葉ほど高い。また、若株においては葉枯度が少灌水区でやや低く、中灌水区で高かったものの、古株ではいずれの区も同様の傾向を示したことから、灌水量との関連は判然としなかった（図7）。
- 5) まとめ：キキョウランは乾燥に強い植物と言われているが、灌水量が多いほど生育は優れる。一方、灌水量が少なくても出芽への影響はなく、前報（遮光との関係）のとおり、出芽には水よりも光の影響が大きいと考えられる。また、各試験区で葉枯度に大きな違いがなかったことから、灌水量と葉先枯との関係はないと考えられた。

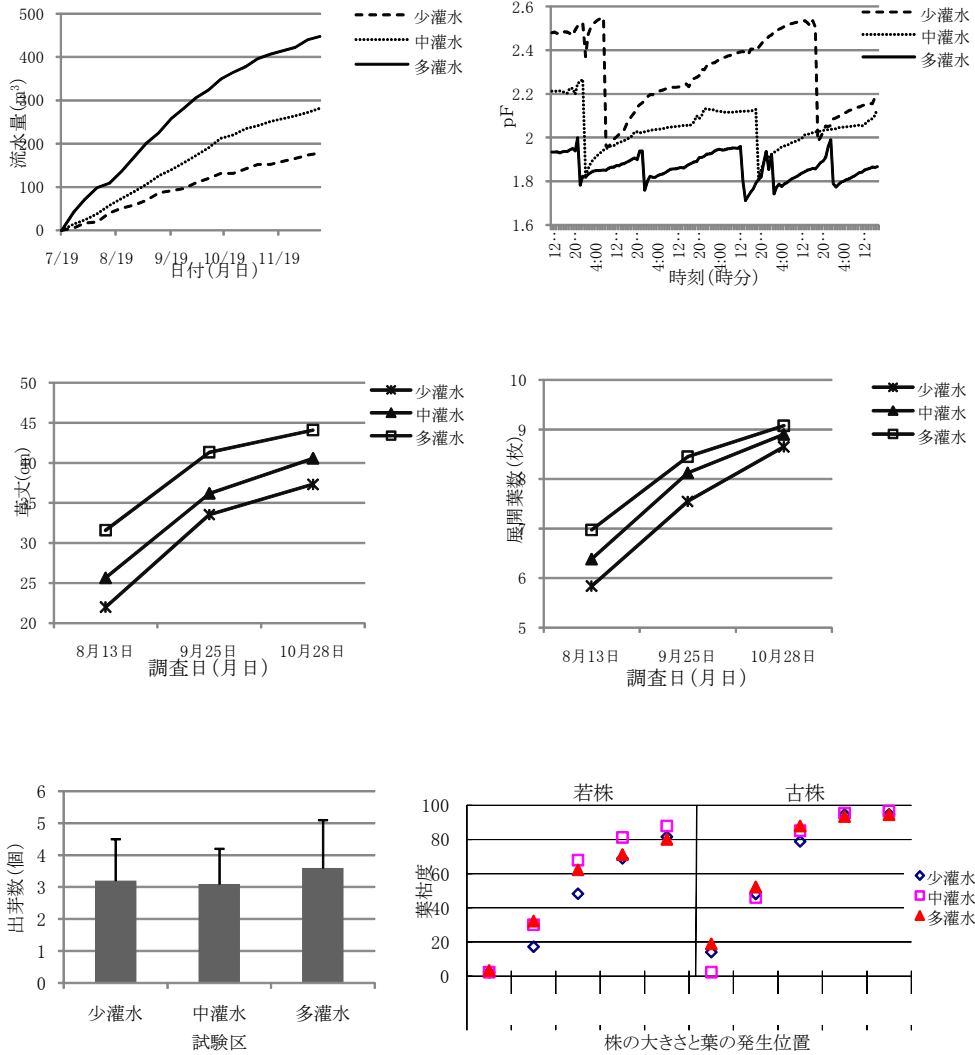


図6 出芽数の推移
 注) 数値は株あたりの平均値
 注2) グラフの上のバーは標準偏差
 注3) 9/25調査

図7 灌水量と葉枯度
 注1) 葉枯度の算出方法は前報に同じ